

ともすみ21

第1巻 第3号

発行日 2025年7月15日

2025年度定期総会開催

「共生社会」とわたしたちの 思いについて

- 私たちの研究会では、「共生社会」を「多様な背景をもつ人々が尊厳をもって生きることができる公正な社会」と位置づけています。
- その実現には、構造的に存在する不平等の可視化や抑圧と搾取に立ち向かうトランスナショナルな社会的連帯のための理論の構築が不可欠です。
- そうした社会を変革していく力を作り出していくために「共生社会研究」を進めていきます。

大阪市立大学共生社会研究会は、2025年7月13日(日)午後7時から、オンラインによる定期総会を開催しました。議題は、以下の通りです。

- ・第1号議案 2024年度の事業報告
- ・第2号議案 2024年度の会計報告
- ・第3号議案 2025年度の事業計画
- ・第4号議案 2025年度の予算案
- ・第5号議案 理事・監事の選出

総会では、田中副会長の司会のもと、柏木会長が議長に選出され、開会の辞を述べられました。その後、議長が、定足の確認を行い、会員23名中、16名が出席、5名が委任状を提出していたため、総会が成立したことが宣言されました。上記の議案は、全て承認されました。

第1号議案から4号議案の概要は、p2～3に掲載します。ここでは、第5号議案に基づき選出された理事・監事の方々を紹介します。

2025年度理事・役員一覧

- ・会長 柏木宏(再任)
- ・副会長 田中逸郎(再任)
- ・会計担当理事 矢野裕子(再任)
- ・企画担当理事 堅田利明(再任)
同 金谷千慧子(新任)
- ・会員管理担当理事 池田和代(再任)
- ・編集担当理事 武輪敬心(再任)
- ・広報担当理事 藪田雪子(再任)
- ・IT担当理事 古山陽一(再任)
同 宮本年也(再任)
- ・監事 山崎真嗣(再任)

なお、上記の理事・監事の任期は2026年度末までです。また、研究会では、追加の役員募集を行います。興味のある方は、ご連絡ください。

目次:

・総会第1号議案：2024年度事業報告	2
・総会第2号議案：2024年度会計報告	2
・総会第3号議案：2025年度事業計画	3
・総会第4号議案：2025年度予算案	3
・夏のイベント紹介 ・シリーズ#2「私の研究・活動」	4

「共生社会研究」の査読委員の募集へ

大阪市立大学共生社会研究会は、2004年度から紀要「共生社会研究」を発行してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症などによる活動の停滞により、2020年を最後に、発行を停止してきました。

研究会にとって、紀要は研究や実践活動の成果を公表する場であるとともに、研究者や実務家の育成を支援する方策、すなわち後進育成策の一環です。昨年来、紀要の再刊発行に関して、正副会長と編集担当理事が中心になり、発行と執筆並びに査読に関する規定の作成について検討が行われ、近く理事会で決定する予定です。

紀要のコアになるのは、査読論文です。ここでいう論文には、論考に加えて、研究報告、研究ノート、活動報告が含まれます。これらの論文の一部は投稿者の希望により、査読論文として扱います。

査読を行うためには、査読委員会を設置する必要があります。このため、研究会では、査読者を募集していきます。募集要項などは、理事会の確認をへて、研究会のウェブサイトやフェイスブックでお知らせします。研究会が扱うテーマは、NPOや共生社会に関連したのになりますが、幅広い領域に及びます。このため、査読者も多様な学術分野からだけでなく、実務実績が豊かな方々にも、加わっていただければと思っています。募集要項などを発表した際には、ぜひご検討、ご応募いただければ幸いです。

大阪市立大学共生社会研究会2025年度定期総会

第1号議案 2024年度事業報告

全体総括(正副会長報告)

2024年度は、6月に総会(対面)を行い、23年度の事業報告と会計報告、24年度の事業計画と予算案が承認された。しかし、役員・理事の選出については、会長以外は11月までの任期となった。これは、各役員や理事の職務が明確でなかったことや、募集期間の確保ができなかったなどのためだ。このため、年末に改めて総会(臨時総会)を行い、役員・理事の選出などを行うことになった。2024年12月に開催された臨時総会(オンライン)の結果、職務明細に基づく業務を実施する意思を確認後、副会長、会計・企画・会員管理・編集・広報・ITの各担当理事と監事が選出された。任期は、2025年総会が予定される6月頃までとされた。

臨時総会后、2024年度の残りの期間と25年度総会までの間に、研究会の事業は進展をみせた。企画担当によるシンポジウムと研究グループが実施した交流会に加え、編集担当によるニュースレターが2回発行(25年1月と4月)され、紀要の発行に向けた体制も26年総会時をメドに進められている。一方、運営面では、フェイスブックの再開とホームページの開設など、IT担当を中心に会員向け及び対外的な情報発信体制が整備されつつある。反面、会員募集における広報や会費納入を行う会計との連携体制の明確化や募集業務の進め方、会員の目標数などは、明確になっておらず、事業の進展とともに、役員・理事の対面・オンラインによる会議が設定ができず、メール稟議の確認で運営体制や事業の実施内容などが進められた。対面による役員・理事会の開催は困難だが、オンライン開催による各担当理事の業務などを相互に意見交換など直接行う体制の確保が求められている。
・「全体総括」の作成者: 柏木宏・田中逸郎

(注) この「全体総括」は、「第1号議案」の「2024年度 事業報告(総論)」を転載したものです。各担当理事による業務別の報告が、ウェブサイトでご覧いただけます。

大阪府立大学共生社会研究会
研究社会の推進 C.A.C.E.

本日の議事

- 2024年度 事業報告
- 2024年度 会計報告
- 2025年度 事業計画
- 2025年度 予算案
- 役員・理事選出

大阪府立大学共生社会研究会 定例総会

第2号議案 2024年度 大阪市立大学共生社会研究会収支決算報告書及び監査報告

2024年4月1日～2025年3月31日			
・収入の部			
項目	予算額	決算額	備考
個人会員2024年会費	60,000	48,000	
賛助会員	5,000	0	
団体会員年会費	10,000	0	
寄付	10,000	0	
利子		149	
繰越金	336,126	336,126	
合計	421,126	384,275	
・支出の部			
項目	予算額	決算額	備考
総会準備費	30,000	19,110	2024年総会分
研修会費	20,000	0	
zoom契約費	0	0	
運営会議費用	15,000	0	
通信費	5,000	0	未払い110(郵送費)
雑費	10,000	0	未払い24,530(空元会長葬儀花代など)
未払い(2023年度分)	32,440	32,440	総会準備費・会議費等
予備費	308,686	/	
繰越金		332,725	
合計	421,126	384,275	
			会計: 古久保 さくら・矢野 裕子
			監事: 向 健二
			2025年7月11日、監査後、会計に提出

第3号議案 2025年度 大阪市立大学共生社会研究会 事業計画(総論)

2025年度の事業計画を以下の通り提案する。

- 1) 研究会・情報交換・発信の場の提供
活動は研究会主催だけでなく、会員が関わる団体(大学、NPOなど)の活動も含む。
2025年10月頃までに、Facebookとウェブサイトで会員関連情報を掲載する仕組みを整備、活用を促す。
担当: 正副会長、IT担当理事。
- 2) 会員相互の交流:
2025年度は交流のみの活動は実施しない。
講演・シンポジウム等などの終了後に、可能な場合は講師や会員間の交流時間を設け、交流を促進する。
担当: 正副会長、IT担当理事。
- 3) 「講演・シンポジウム等」の開催:
研究会が主催するシンポジウムなどを、Zoomで複数回開催する。
企画は正副会長・企画担当理事が中心となり、理事会承認を経て、広報・運営を行う。
講師は会員に限定しない。なお、原則謝金はなし。研究成果に加え、研究方法や論文執筆・査読に関する内容も扱う。
担当: 正副会長、企画担当理事、IT担当理事、広報担当理事。
- 4) 会員の自主的な研究グループ(SG)による講演・シンポジウム等の開催
会員は理事会承認をえてSGを設立でき、自由に講演・シンポジウム等を開催できる。
研究会はZoom利用や広報などの支援を提供。
担当: SGの責任者。
- 5) 「会員が関わる他団体の講演等」の開催支援:
会員は、会員が関わる団体による講演・シンポジウム等の開催支援を理事会承認の上で要望できる。
支援はFacebook掲載などの広報支援や後援名義の提供に限定される。
担当: 要請を求める会員。
- 6) 研究誌等の発行および出版:
2025年度の研究誌(紀要)発行は見送るが、2025年10月～12月に発行PRイベントを開催する。
2026年度初頭のウェブジャーナル発行に向け、編集委員会の設立や投稿規定策定など体制整備を進める。
会員の研究・活動成果は、2025年度中にFacebook(概要)およびウェブサイト(可能な場合全文)に掲載できるようにする。
担当: 正副会長、編集担当理事。

・総論の作成者: 柏木宏・田中逸郎

(注)この「総論」は、「第3号議案」の「2025年度 事業計画(総論)」の概要です。「総論」の全体及び各担当理事による業務別の報告は、ウェブサイトをご覧ください。なお、会員管理について管理体制や会員の個人情報の保護等に関する規約制定の必要性が提起され、検討していくことになりました。

退任理事への謝辞

今回の定期総会の第5号議案で理事・監事の選任が行われ、トップページで紹介したように、11人の理事・監事が承認されました。一方、以下の4名の方々は、2024年度をもって退任されることになりました。これまでのご尽力に、研究会として、感謝申し上げます。

- ・会計: 古久保 さくら
- ・広報: 石井 信夫
- ・会員管理: 中村 晶子
- ・監事: 向 健二

(敬称略)

(注) 第4号議案の支出に関して、計上された予算で、不足が生じた費目がでた場合には、「予備費」を充当する。なお、「予備費」でカバーできない場合は、「補正予算」を編成し、事業や運営に支障が出ないように対応していくことが、総会において確認された。

第4号議案 2025年度予算案		
・収入の部		
項目	金額	備考
会費収入	60000	個人会員30名(2000円)
寄付など	10000	
利子	200	
小計	70200	
繰越金	332725	
合計	402925	
・支出の部		
項目	金額	備考
総会準備費	0	
研修会費	20000	講師謝礼10000円、会場費5000円、印刷代5000円
zoom契約費	20000	
運営会議費用	5000	
通信費	5000	郵送費・宅急便代など
雑費	10000	
未払い(2024年度分)	24640	奎元会長ご葬儀花代など
予備費	30000	
繰越金	288285	
合計	402925	

〒558-8585
大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪公立大学
人権問題研究センター気付
大阪市立大学共生社会研究会

夏のイベント紹介

夏季拡大・定例交流会

オンライン開催のお知らせ

■ テーマ: 苦手克服！プレゼン技術～「情報デザイン」の技法を使いこなそう～

■ 講師: 古山 陽一(国際医療福祉大学 専任講師)

■ 参加費: 無料(非会員可)

■ 日時: 2025年7月15日(火)19～20時

(注)このイベントは、ニュースレターの発行日に開催されます。このため、すでに参加申し込みを終えています。ただし、開催後、研究会のウェブサイト(<https://coexisting1.wixsite.com/academy>)に録画を掲載しますので、それをご覧いただければ幸いです。

~~~~~

■ テーマ: 共生社会研究における研究倫理を考える～「人を対象とする医学系研究倫理指針」を手がかりに～

■ 講師: 宮本 年也  
(藍野大学 教授)

■ 参加費: 無料  
(非会員も参加可)

■ 日時: 2025年7月28日(月)  
19～20時

■ 申し込み方法: <https://forms.gle/RcyEUaKPhPXr464Y8>

(注)申し込みは7月25日までです。

研究会のホームページ

2025年1月15日開設!!

以下のURLに、ぜひ一度  
アクセスしてみてください!

<https://coexisting1.wixsite.com/academy>

## シリーズ#2:「私の研究・活動」

### 私の“モチベーション”

副会長の田中逸郎です。創造都市研究科・都市共生社会研究分野第1期生として、教員も私たち社会人学生も手探りで「学び」をスタートしたことを思い出します。

私の研究テーマは、当時新しい市民活動のカタチとして浮上してきたNPOの可能性でした。とりわけ、当時自治体職員の私にとって、NPOはまちづくりの担い手として地域社会に根づくのか、市民自治の確立に寄与できるのかに関心でした。1期生の多くは強者?の活動実践家たちだったので、NPOをめぐる議論は賛否両論入り乱れて、時には教員も巻き込んだ場外乱闘状態でした(笑)。

そこで鍛えられたからなのか、徐々に「共生」という視点が浮上、社会的マイノリティの支援という段階を超えて、「共生の市民社会づくり」の途を拓くことが研究テーマとなり、実践活動も行う現在に至ります。今日的な言葉で言えば「参画・協働」の道筋づくりにこだわってきたということになるのでしょうか。人とつながる自由と権利が保障される市民社会づくりが目標です。

よろしくお願いたします。

たなかいつろう



【編集後記】 研究会の総会が終わった。各理事から前回総会の2024年12月以降、取り組んできた事業について詳細な報告を伺うことができた。また、会員・理事間で今年度以降の本会の活動の方向性や各人の本会に対する思いなどを共有するとともに、課題を可視化することができた。身も蓋もないと言われそうだが、私個人の所感を述べれば、今回の総会に参加して、改めて「共生」とは何か、考えさせられた。また、本紙のタイトルでもある「ともすみ」を実現するために、相互のリスペクトをベースとして、丁寧なコミュニケーションをひとつずつ積み重ねていきたい。(武輪敬心)